



マルルーニー首相とブッシュ大統領

### 初の外遊でカナダを訪問 ブッシュ米大統領

ブッシュ米大統領が、2月10日、就任後初の外遊先としてカナダを訪問、マルルーニー首相と数時間にわたって会議した。

同首脳は、2国間および多国間のさまざまな問題について意見を交換したが、中心となったのは酸性雨問題。この問題について、ブッシュ大統領は「単なる原因究明の時期は過ぎた」と発言し、マルルーニー首相も酸性雨関連立法に対する大統領の決意は「きわめて大きな進歩を意味する」と述べて、解決協力へ大きな一歩を踏み出した印象を与えた。

ブッシュ大統領は、講会演説のなかで同立法の優先度が高いことを強調しており、カナダ側では大統領の姿勢から見て、1年以内に酸性雨の原因となる排気ガスの規制について2国間協定が締結できるのではないか、と期待している。

### 作家デイビーズ氏などに荣誉賞

カナダのニュース週刊誌「マククリーンズ」は毎年、さまざまな分野で功労のあったカナダ人を選んで表彰しているが、昨年はカナダ文学界の長老ロバートソン・デイビーズ氏など11人と1組の歌手トリオに荣誉賞を与えた。

デイビーズ氏以外に表彰されたのは、歌手のk. d. ラング、世界で初めてリボ核酸を化学合成したケルビン・オギルビー博士、ソ連に初のマクドナルド（ハンバーガー）店を開いたジョージ・コホン、国連の平和維持軍で活躍してきた دونالد・エセル中佐、各国で救援活動を続けている慈善家ケネス・デイビス、過去25年間に12回もアカデミー賞に輝いた映画監督ノーマン・ジュイソン、新作『キャッツ・アイ』などで注目を浴び続ける作家マーガレット・アトウッド、歌とテレビ番組で子供に絶大な人気のあるシャロン、ロイス、ブラムのトリオなど。

### 対加直接投資額、87年は19%増 日本のシェアは8.0%

カナダ投資庁が発表した第3回年次報告書（1987/88）によると、1987年の対加直接投資（暫定値）は、89億ドル。1986年の記録的な実績（前年比2倍の75億ドル）をさらに約19%上回った。投資庁が発足する前年1984年の38億ドルと比べると、約2倍半の額である。

直接投資累計額は、1,031億ドル。1965年の174億ドルの約6倍となった。しかし対国内総生産（GDP）比では、87年までの18年間に30%から19%に下がった。

カナダへの投資国は、依然として米国がトップだが、そのシェアは累積額でも1970年代後半の79%から87年には73%へと減退している。代わって最大の増加率を示したのが、日本、西独、オランダであった。

日本は87年度にカナダにおける新規外国直接投資額の8.0%、件数にして22件であった。それに対して米国は55.3%（152件）、西欧諸国30.4%（84件）となっている。

報告書は、米加自由貿易協定の影響についても触れているが、1993年までのカナダの設備投資増は実質4%以上という先の大蔵省予測は、協定実施によってさらに高まるとしている。



### (⇒前頁より)

スと座席数が増えるが、1991年開館の新庁舎に予定されているリサーチ・センターと比べるとまだまだこじんまりしている。

仮庁舎への移転に伴い、ファックス番号は部署によっては変更になる。移転が完了する4月24日以降のファックス番号は、以下の通り。

大使、公使、武官、国会関係、  
経済/金融部、政治部 03-479-5320  
公使（経済/商務）、商務部、  
投資部、科学技術 03-470-7280  
領事、観光問合せ、査証 03-470-7278

総務、広報・文化、関税—03-408-6933

新庁舎建設工事中は、青山通りに面した従来の正門が閉鎖され、仮庁舎へは青山通りから100メートルほど入った西門から入る。（地図参照）

大使館の業務時間は、月～金曜、午前9時～午後5時半（昼休12時半～1時半）。ただし査証部は、窓口申請/一次入国申請（訪問・観光）：月、水、金曜の午前9時半～12時、申請一般（移民、留学ビザ、一時就労、ワーキングホリデー）：月～金曜の午前9時半から12時半、電話による問い合わせ：月～金曜の午前9時～12時半となっ

ている。

カナダの著名な建築家レイモンド・モリヤマ氏の設計になるカナダ大使館を写真やイラスト入り、3か国語（日英仏語）で説明した美しい本が、建設を担当する清水建設と三菱信託銀行のコンソーシアムにより作成されました。希望者（先着100名）の方に無料で差し上げますので、ハガキに住所、氏名、職業、「再開設計画」希望と明記のうえ、下記までお申し込み下さい。

〒107 東京都港区赤坂7-3-38

カナダ大使館広報・文化部  
カナダニュース担当係